

慶應義塾志木高等学校 光彩館

No. 19-041-2024作成

新築
学校

発注者	学校法人 慶應義塾	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	(株)安藤・間 一級建築士事務所	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	(株)安藤・間 関東支店	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

記憶を継承する未来を見据えたメルクマールとしての新校舎



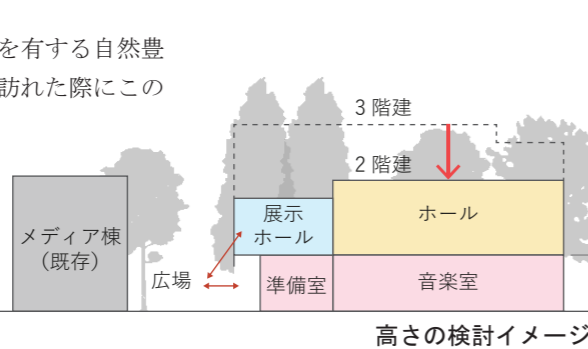
北西側外観

記憶を継承し未来の校舎更新を見据えた建築計画

プロポーザルでは、教育方針「多様な『交際』」ですすめる『数理と独立』の教育」に基づき適正規模教育を実現する中・小教室群、集会可能な多目的ホール、自国文化理解や国際交流のための和室、老朽化した音楽室の更新、芸術理解や発信のための展示室の計画が求められた。敷地は志木の森と言われる自然豊かな環境で建設時期が異なる校舎が点在している。その多くにレンガ調タイルや打放しコンクリートが表出し全体の雰囲気をつくるデザインコードとなっている。既存校舎は森に対比するのではなく共存するように高さを抑え、中央棟の大スロープが特徴的なアプローチを形成している。建設地は敷地西端で交通量の多い県道に面し、周りを低層の建築群や渡り廊下、テニスコート、マラソンコースに囲まれた「原っぱ」であった。私たちはこの受け継がれた豊かな自然環境と共存し、徐々に未来の校舎群を構築していく志木校のあり方の出発点となる建物を構想した。

歴史の継承・志木の森との共存

志木市内で貴重な「志木の森」を有する自然豊かな敷地となっている。敷地を訪れた際にこの豊かな敷地にふさわしい建物を考えさせられた。要求プログラムと残したい動線、作りたい動線・場所を入れ込みながら、森に溶け込む低層の建物としている。



高さの検討イメージ



南西側全景



南側屋外階段



エントランスホール兼展示ホール

多種多様な「交流」が生まれる場

プロポーザルでは、教育方針である「多様な「交際」」ですすめる「数理と独立」の教育」に基づき、①適正規模教育を実現する中・小教室群、②集会可能な多目的ホール、③自国文化理解や国際交流のための和室、④老朽化した音楽室の更新、⑤芸術理解や発信のための展示室の計画、が求められた。

「原っぱ」での楽しみな生徒たちのアクティビティや演奏練習の風景を残すべく、大きさの異なる広場を適宜配し通過動線上や吹抜部にアルコブ的空間を設けることで、様々な動線上に溜まり場を形成した。性格の異なる動線が交錯する空間に感性を刺激するアートや自然を入れ込むことで、多種多様な「交際」が生まれる交差点のような場の創出を意図している。



ポケットテラス



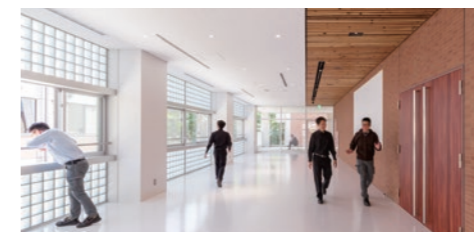
2階外廊下



1階渡り廊下



広場



ホワイエ兼展示ホール

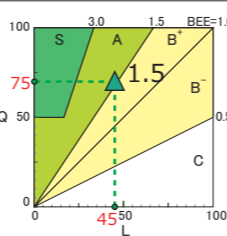


多目的ホール

設計担当者

統括：調恒治、森本道生
建築：弓野将義、田部伊紗美、矢島俊紀
構造：渡邊敦史、西山峻輔
設備：細田敏章、福田知美、紀伊満由子／電気：鈴木竜一、伊澤優一

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	埼玉県志木市	Aランク
竣工年	2023年	BEE=1.5
敷地面積	116,868㎡	2016年度版
延床面積	1,983㎡	自己評価
構造	RC造一部S造	
階数	地上3階	



主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q3. 1. 生物環境の保全と創出 (外構緑化)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (建物高さ抑制、まちなみとの調和をはかった色彩計画)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化 (LED照明、潜熱回収型給湯器、全熱交換器)
- LR2. 1. 水資源保護 (節水型便器)
- LR3. 2. 地域環境への配慮 (地域環境を考慮した建物の配置)
- LR3. 3. 周辺環境への配慮 (周辺環境を考慮したサッシ等級)